

イチゴ「ゆうべに」の畝連続栽培は、2 kg/10a以下の基肥窒素量で収量・品質が安定する



写真 畝面の耕起作業の様子

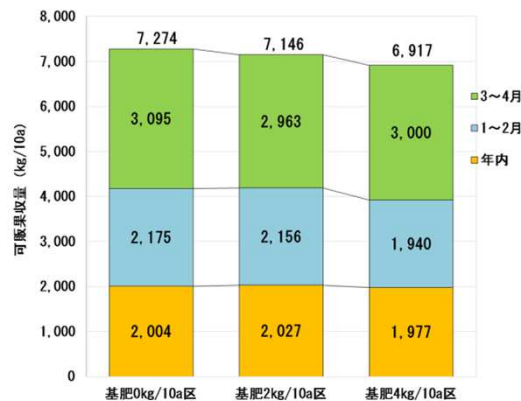


図 基肥窒素施肥量と総可販果収量

問 研究のねらいは？

答 「ゆうべに」は土耕栽培の基肥窒素量として、4kg/10aを基本としています。近年、現地では省力化や排水性の向上のため、畝連続栽培（ ）が増えつつあるため、最適な基肥窒素量について明らかにしました。

前作で用いた畝をそのまま次作で連続して使用する栽培方法。

問 畝連続栽培の最適な基肥施肥量は？

答 基肥窒素量を2kg/10a以下にすると収量や品質が安定します。

- ① 基肥窒素量を減らしても、定植後も順調に生育します。収量については、年内の可販果収量も減少せず、総可販果収量も安定します。
- ② ガク枯れや奇形果などの障害果の発生が少なく、秀品率も向上します。

問 栽培または普及するうえで注意する点は？

- 答
- ① 定植後の生育を見ながら、必要に応じて追肥を行いましょう。
 - ② 基肥を施用する場合は、畝中心にできるだけ深い位置で肥料を混和しまししょう。